

作家解説

浅井 忠（あさい ちゅう / 1856-1907）

江戸木挽町佐倉藩邸内に生まれる。1864年佐倉藩の絵師黒沼槐山に師事し花鳥画を学ぶ。1875年国沢新九郎の画塾彰枝堂に入門し洋画を学び始める。1876年工部美術学校に入学、フォンターネージに師事。1889年明治美術会を創立、1900年から2年間洋画研究のためフランスに留学。帰国後京都高等工芸学校教授となり、京都に居を移す。1903年聖護院洋画研究所を設立。1906年関西美術院の発足にあたり院長となる。

浅野弥衛（あさの やえ / 1914-1996）

三重県鈴鹿市に生まれる。1939年長谷川三郎らを中心とする美術創作家協会展に超現実風の作品を出品して以来、主として美術文化協会展を舞台に作品を発表、1963年には同会を離れる。その後個展を中心に作品を発表。自由に、そして徹底して独自の道を歩んだ。

荻須高德（おぎす たかのり / 1901-1986）

愛知県稲沢市生まれ。1927年東京美術学校を卒業後渡仏。1928年サロン・ドートンヌに入選。その後、サロン・デ・チュイルリーに招待されて出品、1936年サロン・ドートンヌ会員となる。1940年帰国。新制作派協会会員となる。1953年フランス美術批評家協会からポピュリスト絵画賞を受け、翌1954年には毎日美術特別賞を受賞。1981年文化功労者にあげられた。

奥瀬英三（おくせ えいぞう / 1891-1975）

三重県上野市生まれ。1912年上京。太平洋画会研究所で学ぶ。1914年第8回文展に初入選。1925年第6回帝展にて特選受賞。以降3年連続特選を受賞、無鑑査となる。1917年太平洋画会会員となる。戦後1947年石川寅治らと示現（しげん）会を創立、1974年から代表をつとめる。

鹿子木孟郎（かのこぎ たけしろう / 1874-1941）

岡山に生まれる。はじめ大阪に出て松原三五郎の画塾に入り、ついで不同舎に学ぶ。その後、藤島武二の後任として三重県立第一中学校で教鞭をとる。1900年にアメリカを経てフランスに留学。ジャン・ポール・ローランスに師事。帰国後は太平洋画界の指導者として活躍。また浅井忠とともに京都に関西美術院を興し、後進の育成につとめた。

川村清雄（かわむら きよお / 1852-1934）

江戸生まれ。住吉内記に入門、のちに大阪へ移り、田能村直入につく。江戸に戻った後一時春木南溟に学び、1868年ころには川上冬崖について洋画を学ぶ。187年徳川宗家の給費留学生として政治法律の勉強のために渡米するも、欧州を訪問後画家を志し、ヴェネツィア美術学校に学ぶ。1881年帰国、大蔵省印刷局につとめたが、間もなく辞職。1889年明治美術会結成に参加、1901年同会解散後は巴会を結成。

北川民次（きたがわ たみじ / 1894-1989）

静岡県に生まれる。1913年早稲田大学を中退し、アメリカへ渡る。ニューヨークのアート・ステューデント・リーグでジョン・スローンに師事。1923年メキシコへ行き、サン・カルロス美術学校で特待生となり、同校を卒業。1924年野外美術学校長なり、児童を対象に美術教育を行う。1936年帰国、翌年二科会会員となる。1964年第6回現代日本美術展で優秀賞を受賞。

小林研三（こばやし けんぞう / 1924-2001）

四日市に生まれる。横井礼に師事。1942年に二科会に《帰る頃》が初入選するも、第2次世界大戦中のため制作が中断され、二期会第1回展に入選した《風景》が実質的な画壇へのデビューとなる。以後同会を中心に活動したが、1972年に退会以降無所属で制作を行う。1970年名古屋にて浅野弥衛、伊藤利彦らと6人展を開催。1990年画業50周年記念展を四日市で開く。1999年三重県立美術館で小林研三展。

佐藤忠良（さとう ちゅうりょう / 1912-）

宮城県に生まれる。1939年東京美術学校彫刻家を卒業、同年本郷新、船越保武らと新制作派協会彫刻部を創立、以後新制作派展を中心に活動。ロダン、マイヨールなどフランス彫刻、マリニ、マンズーなどイタリア彫刻の影響を受けながら、高村光太郎、荻原守衛、中原悌二郎とつづく日本近代の具象彫刻の思想的造形的な課題を継承。1960年高村光太郎賞受賞。1974年毎日芸術賞受賞。1975年中原悌二郎賞受賞。1981年パリのロダン美術館で個展が開催。

高島達四郎（たかばたけ たつしろう / 1895-1976）

東京生まれ。1914年慶應義塾大学理財科へ入学するも画家志望の念が強く中退、本郷洋画研究所へ通う。1919年第7回光風会展に初入選。1921年第3回帝展に入選、渡仏。サロン・ドートンヌ、サロン・デザインバンに出品。1928年帰国。1930年独立美術教会の創立に会員として参加。以降独立展を中心に制作発表を行う。戦後しばらくは疎開先の熱海に居住。1952年毎日美術賞を受賞。

長谷川潔（はせがわ きよし / 1891-1980）

横浜市に生まれる。1912年本郷洋画研究所に入り、岡田三郎助、藤島武二に油絵を学ぶ。1913年木版画・銅版画を制作し始める。1919年パリに移住。1924年当時顧みられることがほとんどなかった銅版画の技法、マニエール・ノワール（メゾティント）を研究・復興。1935年レジオン・ドヌール勲章を授与される。